

Eurasian connections and intellectual exchanges Tracks



パネリスト

岸本恵実 (大阪大学准教授)

伊曾保物語の「ぱすとる」(羊飼い)
—キリシタン版と国字本をつなぐことば

兵頭俊樹 (和歌山大学准教授)

伊曾保物語と翻訳底本
—文字と画を比べながら

ローレンス・マルソー (イタリア東方学研究所客員研究員)

奈良絵本・絵巻としての西洋文学
—絵入卷子本『伊曾保物語』の意義

ディスカッサント

荒木浩 (国際日本文化研究センター教授)

主催

イタリア東方学研究所
フランス国立極東学院京都支部
京都大学人文科学研究所

お問い合わせ

075 - 703 - 3015

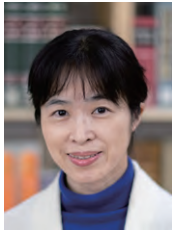
info.iseas@iseas-kyoto.org
efeo.kyoto@gmail.com

よみがえったイソップ絵巻
『絵入卷子本「伊曾保物語」』刊行記念トークイベント

2021
5月21日(金)
17:00-19:00

開催はオンラインのみ
申し込みはQRコードから
※参加にはZoomアプリが必要です





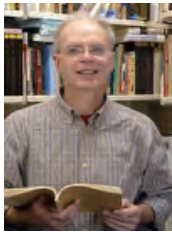
岸本恵実 (きしもと・えみ)

大阪大学准教授。大阪府生まれ。2000年、京都大学大学院文学研究科国語学国文学専修博士後期課程研究指導認定退学。2003年、博士(文学、京都大学)。大航海時代日本宣教に伴って作られたキリシタン資料、なかでも、羅葡日対訳辞書(1595)や日葡辞書(1603-04)など対訳辞書の日本語語彙や編纂過程を中心に研究している。『フランス学士院本 羅葡日対訳辞書』(清文堂出版、2017、解説)、「宣教を意識した『羅葡日辞書』の日本語訳」『訓点語と訓点資料』第121輯(2008)等。



兵頭俊樹 (ひょうどう・としき)

和歌山大学准教授。専門はドイツ文学。1980年京都府立大学文学部卒業。1983年京都大学文学研究科修士課程(ドイツ語学ドイツ文学専攻)修了。論文等:「長い詩行の比較対照韻律論スケッチ」(2003)、「ゲーテ『ファウスト』のトリメーター(Trimeter)」(2007)、「ヘルダーリンの『多島海』「天空に響く兄弟たちの調べ」からケケロの『スキピオの夢』へ」(2018)、「『伊曾保物語』の翻訳底本から文語祖本説の再検討へ」(2021)。



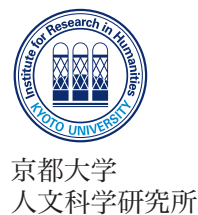
ローレンス・マルソー (Lawrence E. Marceau)

1971-72年、別府市に交換学生として滞在する。1983年京都大学修士(国語学国文学専修)1989年ハーバード大学博士(東アジア研究、特に日本近世文学研究)。1989年~2020年、米国・日本・ニュージーランドの大学で日本文学の講義・論文指導に関わる。Takebe Ayatari: A Bunjin Bohemian in Early Modern Japan (2004)などの著書や共編、研究論文、書評、学会発表など多数。2017年、外務大臣表彰授与(日本とニュージーランドの文化・学術交流に貢献)。2020年から京都市在住。



荒木浩 (あらかし・ひろし)

国際日本文化研究センター教授・総合研究大学院大学教授。専門は日本古典文学。京都大学大学院博士後期課程中退。博士(文学、京都大学)。大阪大学大学院教授を経て、2010年4月より現職。国文学研究資料館併任助教授、コロンビア大学客員研究員、ネルー大学、チューリヒ大学、ベトナム国家大学、チューラーロンコン大学、ソフィア大学の客員教授などを歴任。著書に、『徒然草への途』(勉誠出版、2016)、編著に『古典の未来学』(文学通信、2020)他。京都新聞に「文遊回廊」を連載中。



『絵入卷子本「伊曾保物語」―翻刻・解題・図版解説』(臨川書店、二〇二一年刊)の出版を記念して、編者を含む四人の研究者が、中世ヨーロッパ文学、中・近世日本文学、日本語学、美術史など様々な立場から、日本版『イソップ寓話集』の絵巻に切り込む。この絵入り卷子本六巻は十七世紀後半に制作され、奈良絵本・絵巻というジャンルの優れた例である。しかし、『伊曾保物語』の絵巻様式として現在知られる唯一のものであるにもかかわらず、学術的には一九三〇年に一度紹介されたのみであった。刊行をきっかけに、作品の存在を再確認すると同時に、発表者だけでなく、参加者も交えながら、その特徴や背景について語り合う。



Eurasian Tracks
connections and intellectual exchanges

よみがえったイソップ絵巻

『絵入卷子本「伊曾保物語」』刊行記念トークイベント

2021 5月21日(金) 17:00~19:00